

川崎町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 人口ビジョン・総合戦略（概要版）

～『ひと』が生きづく 魅力ある『まち』を創ろう～

●まち・ひと・しごと創生とは

- ◇我が国の人口は、平成20年から減少傾向に転じ、今後も加速的に減少することが見込まれており、人口減少による消費・経済力の低下は日本経済状況に大きな影響を与えることとなります。
- ◇国は平成26年に「まち・ひと・しごと創生法」を施行し、人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度な集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保することで将来に渡り活力ある日本社会を維持するとしています。
- ◇本町においても、全国的な動向と同様、人口減少、少子高齢化が進行しており、地域経済やコミュニティの維持が大きな課題となることから、本町が目指すべき将来展望を示した『人口ビジョン』と、それを実現するための具体的な戦略を定めた『総合戦略』を策定し、取り組みを進めていきます。

「人口ビジョン」

- ・重要な岐路に立つ本町の人口問題の現状を分析し、人口の将来展望（ビジョン）を示します。
- ・2060（平成72）年度を目標とします。

「総合戦略」

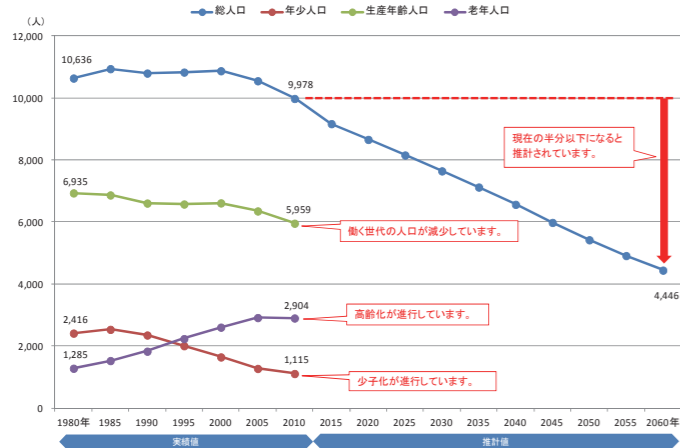
- ・「人口ビジョン」を羅針盤として本町が実施する人口減少問題に対する取組の内容を示します。
- ・平成27（2015）年度から平成31（2019）年度）までの5ヶ年を計画期間とします。

川崎町 人口ビジョン

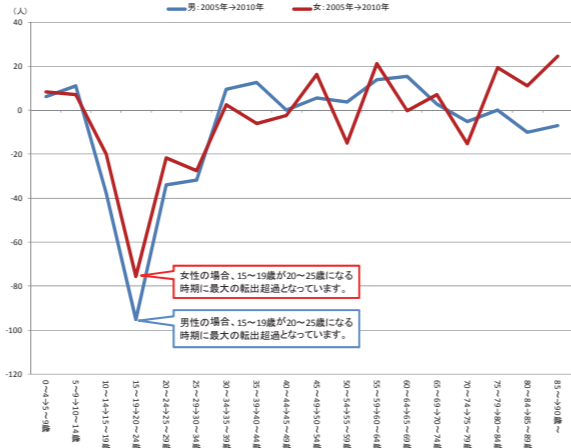
●川崎町の人口動向

本町では、若年層が継続して流出を続けているため、子どもを産み育てる年齢層が減少して出生数が少なくなり、また高齢者の人口が相対的に多く、死亡数の影響が大きくなるという構造的な課題を抱えるなど、このまま推移していけば、平成72（2060）年には人口が現在の半分以上まで縮小する可能性があります。

■人口の動向と将来の人口推計



■性別年齢別の人口移動状況



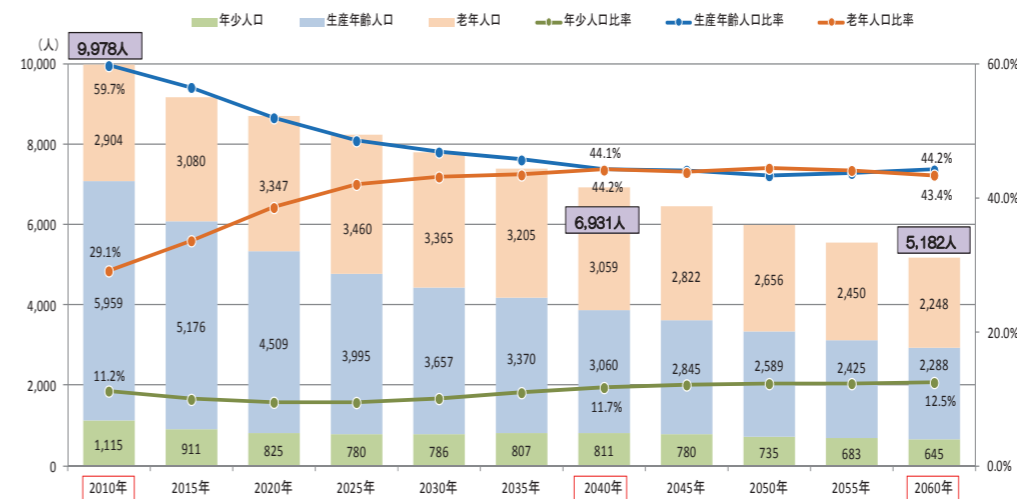
- ◆【全国より早いペースで減少】：昭和30（1975）年頃をピークに平成12年から人口が減少し始め、国全体が人口減少社会に突入したと言われる平成17（2008）年より先に減少傾向が加速しています。
- ◆【一定の割合で続く若年層の流出】：進学及び就職を機に若年層が町外へ流出し、そのまま転出先に定住するなど、故郷にもどらないという状況が続いています。（特に仙台市、県外では関東地区への流出超過）
- ◆【出生率及び出生数の低下】：子どもを産み育てる年齢層が流出し、合計特殊出生率は1.25まで低下したことで子どもの数が大きく減少しています。

- ◆人口減少は、労働力人口の減少、消費市場や経済規模の縮小、生活・医療・福祉等のサービス低下、商店街等衰退による買い物困難など様々な影響を及ぼすとされています。
- ◆このような状況をしっかりと見据え、人口減少、少子高齢化の抑制に向け、結婚・出産・子育て環境の改善による出生率の向上、定住促進、U・I・Jターンの移住促進などにより、自然減・社会減の抑制を図る必要があります。

川崎町 人口ビジョン

●川崎町の人口の将来展望

- 人口減少を緩和していくためには、定住や移住に関する希望や就職・雇用に関する希望をかなえながら、町外への流出を抑制して、町内定住を促進することにより社会増減の均衡を図ることが必要です。
- また、将来的に人口減少から人口維持、さらには可能な限り人口増加への転換を図っていくためには、若い世代を中心として結婚や妊娠、出産や子育てに対する希望をかなえる取り組みを継続的に実施し、出生率の向上を図っていくことが必要です。
- 目標の達成に向けては、出生率を現状の1.25から平成72年で2.07まで向上させるとともに、社会増減を均衡させ、それを継続することを目指します。



本町においては、これまでの人口動向の分析や人口推計のケーススタディから把握した町の課題と特性に加え、合計特殊出生率の上昇や純移動率の縮小を図ることにより、長期的視点から人口減少の抑制に取り組むこととし、その目標として目指すべき将来の戦略人口を、下記のように設定することとします。

川崎町の将来展望

○自然減の抑制

- ・2020年に合計特殊出生率「1.40」
- ・2030年に「1.80」に達し
- ・2040年以降「2.07」を維持

○社会増減の現状維持

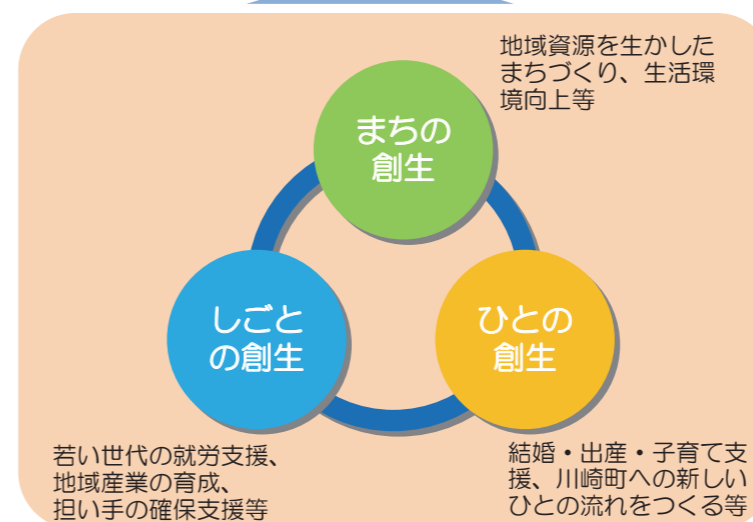
- ・2020年まで純移動率が0.5倍に縮小
- ・その後は状況維持

戦略人口

- ・2040年「6,900人程度」
- ・2060年「5,100人程度」を維持

●まち・ひと・しごと創生総合戦略の構図

『ひと』が生きづく 魅力ある『まち』を創ろう



「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立するとともに、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻し、『ひと』が生きづく 魅力ある「まち」を目指します。

- 1 時代にあった人づくり・地域づくりと安心な暮らしを守る
- 2 川崎町への新しい人の流れをつくり、定住性を高める
- 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 4 自然環境や地域特性を生かした雇用の場の確保

国の支援制度の積極的な活用、宮城県や周辺市町村との連携、組織や立場を横断して多様な経験や専門性を持つ人材が関わるオール川崎の体制づくりの推進等によって目標の実現を図ります。